

1. アングロ・アメリカン社(Anglo American plc)

1. 企業概要

本社	イギリス・ロンドン
主要事業	非鉄金属鉱山、ダイヤモンド、石炭、工業原料、鉄鋼、木材・木材製品
従業員数	177千人(J/V 及び権益保有会社分を除く)
決算日	12月末日
主要関連会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ アングロゴールド社 (Anglogold Ltd.: 51.4%) ・ アングロ・プラティナム社 (Anglo American Platinum Corporation Ltd.: 67.6%) ・ デ・ピアス社 (DB Investments: 45.0%)

2. 財務状況 (US\$ million)

	2002年	2001年	2000年
売上高 Group and share of turnover of joint ventures and associates	20,497	19,282	20,570
当期利益 Profit for the financial year	1,563	3,176	1,957
資産 Total assets	33,581	25,501	30,616
流動資産 Current assets	7,364	7,118	8,375
負債 Total liabilities	17,320	12,075	15,072
流動負債 Current liabilities	6,247	6,237	7,425
株主資本 Total shareholders' funds	16,261	13,426	15,544
探鉱費 Exploration expenditure	93	101	116

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	2002年	2001年	2000年	2002年の世界シェア
銅鉱石 (000 t)	713.2	671.6	634.7	5.3% (7位)
鉛鉱石 (000 t)	56.3	62.7	89.5	2.1% (11位)
亜鉛鉱石 (000 t)	205.5	208.5	174.2	2.4% (8位)
ニッケル鉱石 (000 t) ¹	48.4	52.1	46.0	3.9% (8位)
金 (t) ²	195.8	221.2	233.0	7.5% (2位)
白金 (t)	70.1	68.6	70.1	41.7% (1位)
パラジウム (t)	34.8	34.2	31.1	22.4% (2位)
ロジウム (t) ³	-	6.4	5.4	35.8% (1位)
クロム鉱石 (000 t)	1,056	1,052	1,450	7.7% (5位)

¹ アングロ・プラティナム社の生産分を含む。

² 金はアングロゴールド社、白金族はアングロ・プラティナム社の生産量。

³ ロジウムの世界シェアは2001年の数字。

4. 沿革

アングロ・アメリカン社の前身である Anglo American Corporation of South Africa(以下 AAC) は、1917 年、南アフリカに設立された。その後、経営の多角化、アングロ・アメリカン社への改組を経て、鉱物資源のみならず工業、林業、建設業、金融サービス業など幅広い分野に事業を展開する 1 大企業グループを形成している。

1917 年 9 月、ダイヤモンドへの投資で成功したアーネスト・オッペンハイマー卿(Sir Ernest Oppenheimer) は、イースト・ランド深部金鉱床(East Rand) の開発を目的として AAC を設立した。同社の社名は、英国、米国、南アフリカなどから資本金が集められたことに由来する。

26 年、Daggafontein 金鉱山の開発成功ならびに Brakpan、Springs 両金鉱山の拡張により成長の足がかりを作った。同年、ダイヤモンドのリーディング・カンパニーであるデ・ピアス社の筆頭株主となった。

28 年、現ザンビアの“カッパーベルト(Copperbelt)” 開発を目的としてローデシアン社(Rhodesian Anglo American Ltd.) を設立、同年、南アフリカの“ブッシュフェルト複合岩体(Bushveld igneous complex)” を発見した Hans Merensky 氏とパートナー・シップを結び、翌年にはオッペンハイマー卿がデ・ピアス社のチェアマンに就任するなど、このころまでに貴金属・ベースメタル・ダイヤモンドを軸とした AAC 社の基礎が固められた。

42 年、SA Township 社を買収することでフリー・ステート鉱区の権益を取得、さらに 44 年、ウェスタン・リーフス周辺地域の調査・開発を目的としてバール・リーフス社(Vaal Reefs Exploration & Mining Co. Ltd.) を設立し、南アフリカにおける金鉱山開発を積極的に推進した。

61 年、ハドソン・ベイ社(Hudson Bay Mining & Smelting Co. : カナダ) の権益を取得、これはアフリカ以外で最初の大きな投資であった。

60 年代から 70 年代、金属資源以外の分野へ相次いで投資、Amic 社(63 年 : 工業原料)、Mondi グループ(67 年 : 紙・木材)、Amcoal 社(75 年 : 石炭) などを設立するとともに、鉄鋼生産技術の開発にも乗り出した。

71 年、ザンビア“カッパーベルト” の国有化に伴い、ローデシアン社はザンビアの直接権益を処分、南アフリカ Bermuda に本社を移し、社名を Minerals & Resources Corporation 社に変更した。同社は、74 年にミノルコ社(Minorco SA) と再度社名を変更、87 年にはルクセンブルグに本社を移転した。

85 年、フリー・ステート鉱区の鉱山を整理・統合し、フリーゴールド社(Freegold = Free State Consolidated Gold Mines Ltd.) を設立した。

90 年代、国際競争力強化を目的として、AAC 社はその複雑な権益関係の整理に乗り出した。その一環として、93 年にアフリカ以外の資産(ダイヤモンドを除く) をミノルコ社に集約、95 年には AAC 社が 39.7% の権益を保有した JCI 社(Johannesburg Consolidated Investment Co.) の資産を白金族金属・ダイヤモンド部門(アンブラッツ社 : ダイヤモンド資産は後にデ・ピアス社に移管)、その他鉱業部門(新 JCI 社)、工業部門(Johnnic 社) に分割し、Johnnic 社および新 JCI 社の権益を黒人投資家に譲渡することを決定した。また、98 年 6 月、バール・リーフス鉱山(Vaal Reefs) を母体としてフリーゴールド社を含む傘下の 5 金生産者、2 探鉱会社および JCI 社が権益を保有したジョエル鉱山(Joel) を合併し、アングロゴールド社を設立した。さらに同年、Amcoal 社および Amic 社の少数権益を買い占め、これらを 100% 子会社にするるとともに、世界最大のマンガン・クロム合金プロデューサーであるサマンコール社(Samancor Ltd.) の権益 40% を取得した。

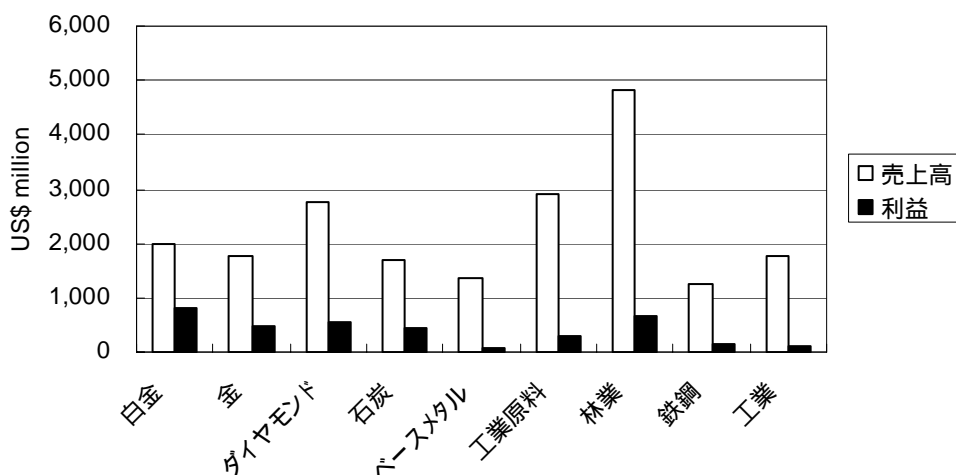
こうした再編の結果、AAC は事業部門別に系列子会社を所有する持株会社としての性格を強め、ついには 99 年 5 月 24 日、ミノルコ社を合併し、アングロ・アメリカン社としてロンドン株式市場に上場、同時に本社をロンドンに移転した。

5. 事業内容

アングロ・アメリカン社は金、白金族、ダイヤモンド、石炭、ベースメタル、工業原料、鉄鋼・工業、林業の 8 部門について事業を行っているほか、探鉱・買収・技術サービス部門が各部門を横断して活動している。

2002 年の部門別の売上高は、林業の売上高が最も大きく、アングロ・アメリカン社全体の 23.6% を占めた。次いで、工業原料 (14.3%)、ダイヤモンド (13.5%)、白金 (9.9%) となっている。

2002年部門別売上高と利益



利益は Operating Profit

(1) 金

アングロゴールド社に 51.4% の権益を保有し、アフリカ、オーストラリア、南北アメリカで鉱山を操業している。

アフリカの鉱山としては、南アフリカでパール・リバー、ウェスト・ウィッツおよびエルゴで生産を行っているほか、モリラ、サディオラ、ヤテラ (以上マリ)、ナバチャフ (ナミビア)、ゲイタ (タンザニア) の各鉱山に権益を保有する。なお、フリー・ステート地域の鉱山は 2002 年 1 月にハーモニー・ゴールド (Harmony Gold Mining) 社と ARM (African Rainbow Minerals) 社の JV に売却している。

米国ではクリップル・クリーク&ピクター (コロラド)、ジェリット・キャニオン (ネバダ) 南米ではモロ・ヴェーリョ、セラ・グランデ (以上、ブラジル)、セロ・ヴァンゲアルディア (アルゼンチン) の各鉱山に権益を保有する。

また、1999 年末にオーストラリアの Acacia Resource 社を買収し、2000 年からオーストラリアにおける金生産を計上した。

その他の金資産として、アングロ・アメリカン社は GFL 社 (Gold Fields Ltd. : 南アフリカ) に 20.0% の権益を保有する。GFL 社は、98 年、かつて南アフリカの 6 大マイニングハウスの一つとしてそれぞれ知られていた GFSA 社 (Gold Fields of South Africa Ltd.) とジェンコール社 (Gencor Ltd.) が両社の金資産を統合して設立された世界 4 位 (01 量) の金プロデューサーである。なお、アングロ・アメリカン社は 2001 年に金融サービス部門の FisrtRand 社の売却に関連して GFL 社の権益を 16.7% に引き上げ、2002 年 6 月には 20.0% にまで引き上げている。

なお、同社設立の際、ドリエフォンテイン鉱山 (Driefontein Consolidated Ltd.) が母体となることに AAC が反対し、これを阻止した経緯がある 5)。この際、AAC はドリエフォンテイ

ン鉱山の直接権益を 21.5%に引き上げたが、99 年、資産整理のために同鉱山の直接権益を全て売却した。

2002 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 ⁴ %	埋蔵量 百万 t	タイプ	品位	
パール・リバー（南アフリカ） ⁵ Vaal River	100	94.6	UG	8.47 g/t	53.0 t
ウェスト・ウィッツ（南アフリカ） West Wits	100	66.9	UG	8.63 g/t	41.8 t
エルゴ（南アフリカ） Ergo	100	65.7	Tailings	0.37 g/t	8.2 t
モリラ（マリ） Morila	40	27.8	OP	4.72 g/t	32.8 t (13.1 t)
サディオラ（マリ） Sadiola	38	31.8	OP	2.95 g/t	14.7 t (5.6 t)
ヤテラ（マリ） Yatela	40	11.5	OP	3.49 g/t	8.3 t (3.3 t)
ナバチャフ（ナミビア） Navachab	100	10.8	OP	1.81 g/t	2.6 t
ゲイタ（タンザニア） Geita	50	70.4	OP、UG	4.16 g/t	18.0 t (9.0 t)
クリップル・クリーク&ビクター（米国） Cripple Creek & Victor	66.7 ⁶	125.7	OP	1.06 g/t	7.0 t
モロ・ヴェーリヨ（ブラジル） Morro Velho	100	7.4	OP、UG	7.32 g/t	6.4 t
セラ・グランデ（ブラジル） Serra Grande	50	4.0	UG	7.61 g/t	5.8 t (2.9 t)
セロ・ヴァンガルディア（アルゼンティン） Cerro Vanguardia	92.5	9.5	OP	7.68 g/t	6.1 t (5.6 t)
ユニオン・リーフス（オーストラリア） Union Reefs	100	2.5	OP	1.07 g/t	3.7 t
サンライズ・ダム（オーストラリア） Sunrise Dam	100	17.0	OP	4.71 g/t	11.8 t

アングロゴールド社の金生産は、南アフリカでの生産が全体の約 70%を占めるが、鉱床の深部化・高コスト化が進んでいるため、閉山・売却等を含め南アフリカの鉱山の効率化を進めるとともに、南アフリカ以外の鉱山の獲得を進めている。

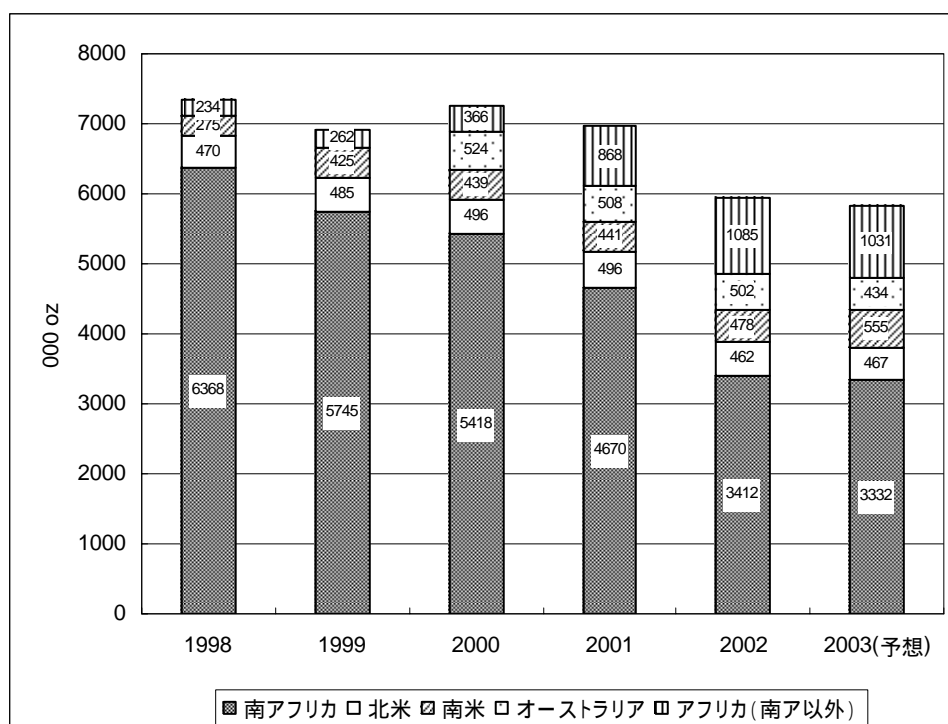
2002 年 5 月にガーナの Ashanti Goldfields 社はアングロゴールド社と合併について話し合いを持っていることを発表した。Ashanti Goldfields 社はガーナ、ギニア、タンザニア、ジンバブエに金鉱山を保有しており、主にアフリカで活動している企業である。同社の買収には、その後 Randgold 社が名乗りを上げたが、Ashanti Goldfields 社の権益を有している英 Lonmin 社及びガーナ政府がアングロゴールド社との合併を支持したことで、アングロゴールド社との合併が予定されている（2003 年 4 月）。アングロゴールド社と Ashanti Goldfields 社の合併により、2002 年ベースでの金生産量は 235 トン（7.56 百万 oz）となり、再び世界最大の産金企業となる。なお、この合併によりアングロ・アメリカン社のアングロゴールド社に対する

⁴ アングロゴールド社の権益。

⁵ パール・リバー、フリー・ステート、ウェスト・ウィッツの埋蔵鉱量及び埋蔵品位は、各オペレーションに属する鉱山の埋蔵量及び埋蔵品位から算出した。

⁶ 66.7%はCripple Creek & Victor社に対する権益であり、生産された金に関しては 100%の権益を有する。

権益は、44.5%に低下する。



アングロゴールド社の金生産の推移
(1998年の北米・南米の生産はミノルコ社)

- ・ 南アフリカでは、パール・リバー、ウェスト・ウィッツに各鉱床帯に属する6鉱山及び尾鉱処理を行っているエルゴ処理場で生産を行っている。
- ・ パール・リバー鉱床帯に属するモアブ・ホッツソン (Moab Khotsong) 鉱山を現在開発中で、2003年第4四半期から生産開始、2006年にフル操業となる予定である。2015年までに4.5百万ozの金を平均キャッシュ・コストUS\$97/ozで生産予定である。
- ・ 2002年7月、Perez Companc からセロ・ヴァンガルディア鉱山の46.25%の権益を買収し、同鉱山に対する権益比率を92.5%とした。
- ・ 70%の権益を有していた米国のジェリット・キャニオン鉱山は、2003年初めにQueenstake Resources社に売却された。なお、残りの30%の付いてもQueenstake Resources社が買収している。

(2) 白金族

アングロ・プラチナム社に67.6%の権益を保有する。なお、2002年12月に権益比率をそれまでの59.6%から上げている。

同社は、95年、旧JCI社の白金族金属資産であるルステンブルグ社 (Rustenburg Platinum Holdings Ltd.)、ポトゲテルスタスト社 (Potgieterstust Platinum Ltd.)、レボワ社 (Lebowa Platinum Mines Ltd.) の運営母体として設立され、ブッシュベルト複合鉱床帯において事業を実施している。

なお、アングロ・プラチナム社が生産する白金族金属は全てジョンソン・マッセイ社 (Johnson Matthey) を通じて市場に流通している。

2002 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 ⁷ %	タイプ	生産量
ルステンブルグ (南アフリカ) Rustenburg	100	UG	20.4 t Pt 8.5 t Pd 1.3 t Rh
アマンデルブルト (南アフリカ) Amandelbult	100	UG	22.1 t Pt 9.8 t Pd 2.2 t Rh
ユニオン (南アフリカ) Union	100	UG	8.9 t Pt 3.9 t Pd 1.3 t Rh
ポトゲテルスタスト (南アフリカ) Potgieterstust	100	OP	5.1 t Pt 4.9 t Pd 0.4 t Rh
バフォケン・ラジモネ (南アフリカ) Bafokeng-Rasimone	100	UG	5.0 t Pt 2.1 t Pd 0.3 t Rh
レボワ (南アフリカ) Lebowa	100	UG	3.2 t Pt 2.0 t Pd 0.3 t Rh

アングロ・プラティナム社は、南アフリカのブッシュベルト複合鉱床帯 (Bushveld complex) において、白金族の採掘を行っている。同鉱床帯の主な鉱床にはメレンスキー鉱床 (Merensky reef)、アッパー・グループ 2 鉱床 (Upper Group 2 reef; UG2 reef) 及びプラット鉱床 (Platreef) があり、アングロ・プラティナム社は、ポトゲテルスタスト鉱山ではプラット鉱床を、それ以外の鉱山ではメレンスキー鉱床及び UG2 鉱床を、対象に採掘を行っている。

メレンスキー鉱床/プラット鉱床及び UG2 鉱床のアングロ・プラティナム社分の埋蔵量及び品位は次表の通りである。

2002 年末の白金族埋蔵量及び品位

鉱床	確認埋蔵量/品位		推定埋蔵量/品位	
	埋蔵量 百万 t	品位 g/t 4E ⁸	埋蔵量 百万 t	品位 g/t 4E
メレンスキー/プラット	121.2	4.95	661.6	4.32
UG2	75.9	4.39	858.5	4.66

- 2000 年 5 月、現在の年間生産量 1.9 百万 oz (59 t) を 2006 年までに 3.5 百万 oz (109 t) とする 21 億 US\$ の拡張計画を発表したが、南アフリカ・ランド高の影響で、2003 年 12 月に拡張計画の見直しを発表した。見直しによれば、2006 年の生産ターゲットは 2.9 百万 oz に下方修正されている。
- 新規プロジェクトのうち、Modikwa 及び Bafokeng-Rasimone プロジェクトに関しては、それぞれ黒人資本の African Rainbow Minerals 社と Royal Bafokeng Nation 社と JV を組み、黒人の経済的権利の向上 (Black Economic Empowerment) に配慮している。
- 2003 年 4 月に、ジンバブエの Unki 鉱床の開発を発表した。同鉱床の開発は 1998 年にすでに発表されていたが、開発開始が遅れていた。投資額は 90 百万 US\$ で、採鉱量 85,000 t/月で精鉱は南アフリカのアングロ・プラティナム社の精錬所に送られ、58,000 oz/年の白金を生産する予定。生産開始は 2007 年を予定しているが、上述の拡張計画見直しの影響を受けるものと考えられる。

⁷ アングロ・プラティナム社の権益。

⁸ 品位は、4Eは“4 elements”、すなわちプラチナ、パラジウム、ロジウム、金の合計である。

(3) ベースメタル

アングロ・アメリカン社のベースメタル事業は、同社設立の際にミノルコ社の資産を統合し、銅、鉛、亜鉛、ニッケル、ミネラルサンドを対象に事業を行っている。

銅

チリのコジャワシ鉱山、マントス・ブランコス社（マントス・ブランコス鉱山及びマントヴェルデ鉱山）、ディスプターダ社（ロス・ブロンセス鉱山及びエル・ソルダード鉱山）に権益を有するほか、カナダのハドソン・ベイ社、南アフリカのパラボラ鉱山（権益比率 29%、リオ・ティント社の項を参照）に権益を有する。

2002 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
コジャワシ (チリ) Collahuasi	44	1,839	OP	0.92 %	434 千 t (191 千 t)
マントス・ブランコス (チリ) Mantos Blancos	100	142	OP、UG	0.85 %	96 千 t
マントヴェルデ (チリ) Mantoverde	100	135	OP	0.53 %	57 千 t
ロス・ブロンセス (チリ) ⁹ Los Bronces	100	1,065	OP	0.70 %	29 千 t
エル・ソルダード (チリ) ⁹ El Soldado	100	99	OP、UG	1.03 %	10 千 t
ハドソン・ベイ (カナダ) ¹⁰ Hudson Bay	100	18	UG	1.99 % Cu 4.98 % Zn	83 千 t Cu 108 千 t Zn

- コジャワシ鉱山では、現在採掘中の Ujina 鉱体の鉱石品位低下に対応するため、隣接する Rosario 鉱体へ採掘の転換を進めており、その一環として、選鉱能力を 60,000 t/day から 110,000 t/day に拡張することとしている。2004 年 6 月には新選鉱場が稼動する予定であるが、鉱石品位が低下するため、銅生産量は現状維持となる見込みである。
- ペルーのケジャベコ (Quellaveco、アングロ・アメリカン 80%、世銀グループ 20%) プロジェクトは F/S を完了しているが、開発の決定はなされていない。同鉱山は埋蔵鉱量 938.4 百万 t (0.64 %Cu) を有し、鉱山ライフ 26 年で、平均 200,000 t の銅精鉱を生産予定。なお、SPCC 社が同鉱床の獲得に興味があると伝えられている。
- 2000 年 4 月にアングロ・アメリカン社は Zambia Copper Investment Ltd. (ZCI、アングロ・アメリカン社の権益 50.9%) を通じて、Konkola Copper Mines plc (KCM) の権益 65% を取得することで、コンコラ鉱山及びヌチャンガ鉱山の権益を ZCCM から取得した。しかし、2002 年 1 月に KCM の損失、銅及びコバルト価格の低迷等を理由に撤退を表明し、8 月にザンビア政府や ZCCM 等と合意に達した。
- 2002 年 5 月にチリ・Disputada de Las Condes 社 (CMD 社) を Exxon Mobile 社から 130 億ドルで買収することを発表し、11 月に完了した。

鉛・亜鉛

南アフリカのブラック・マウンテン鉱山及びアイルランドのリシーン鉱山に権益を有する。なお、カナダのハドソン・ベイ社の亜鉛生産量は銅の項に記した。

⁹ ロス・ブロンセス鉱山及びエル・ソルダード鉱山の生産量はアングロ・アメリカン社が権益を獲得してから 49 日分の数字。なお、ディスプターダ社の 2002 年通年の生産量は 249.8 千 t である (出典: チリ銅委員会)

¹⁰ Hudson Bay Mining & Smelting Co. Ltd. は、Callinan、Flin Flon 等の鉱山を保有し、生産量は同社の生産量の合計である。

2002年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	埋蔵鉱量 百万t	タイプ	埋蔵品位	生産量 (権益分)
ブラック・マウンテン (南アフリカ) Black Mountain	100	3.1	UG	3.30% Pb 2.02% Zn	45千t Pb 28千t Zn
リシェーン (アイルランド) Lisheen	59 ¹¹	12.8	OP	1.96% Pb 11.26% Zn	22千t Pb (13千t) 152千t Zn (89千t)

- ・ ブラック・マウンテン鉱山は当初後述するガンズベルグ (Gamsberg) プロジェクトへのインフラの流用のために買収され、2002年に閉山の予定であったが、探鉱の結果、深部への交渉の延長が確認されたため、2000年5月、ブラック・マウンテン鉱山の深部への拡張工事を決定し、2013年まで生産が可能になるものとされている。なお、拡張工事はスケジュールとおりに進んでおり、2004年に生産開始予定である。
- ・ ブラック・マウンテン鉱山の埋蔵鉱量が2001年に比べて大幅に減少しているが(2001年は12.7百万トン)これは鉱山開発計画の見直しと経済性が見込まれない埋蔵量を資源量に計上し直したためである。
- ・ ナミビアのスコピオン鉱山は2003年5月に生産を開始し、同年9月に正式に改ざんした。鉱山開発にかかる投資額は454百万US\$で、15年間にわたり150,000t/年の亜鉛生産を予定している。なお、鉱石はケイ酸塩・酸化鉱で、SX-EWにより金属が回収される。
- ・ 南アフリカのガンズベルグ・プロジェクトは2000年9月にF/Sを終えた。埋蔵鉱量145.3百万t、亜鉛品位6.04%で、年間300千tの亜鉛生産が計画されているが、亜鉛価格低迷を理由に現在開発は進められていない。

ニッケル

コデミン (ブラジル)、ロマ・デ・ニッケル (ヴェネズエラ) の各鉱山に権益を保有している。

2002年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	埋蔵量 百万t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
コデミン (ブラジル) Codemin	90	4.5	OP	1.35%	6千t
ロマ・デ・ニッケル (ヴェネズエラ) Loma de Niquel	91	40.4	OP	1.47%	15.5千t

- ・ 南アフリカのNkomati鉱山の25%の権益を有する。2003年6月までの12ヶ月間の生産量はNi 4,900t、Cu 3,300t、Co 62t、白金族金属 39,000ozである¹²。アングロ・アメリカン社は、2002年3月に鉄鉱石事業の拡大を目指して、南アフリカのKumba Resources社及びAnglovaal Mining社 (Avmin社) の権益を獲得した。Avmin社はNkomati鉱山の残りの75%の権益を有しており、この時点でアングロ・アメリカン社のNkomati鉱山の権益比率は約51% (直接権益25% + 間接権益75% × 34.5%) となったが、2003年5月に、Avmin社の権益を南アフリカのHarmony Gold Mining社とAfrican Rainbow Minerals Gold社に売却した。これは、南アフリカの独占禁止に関する法律との絡みによる。
- ・ ジンバブエのピンジュラ社 (Bindura、権益53%)、オーストラリアのアナコンダ社 (Anaconda Nickel Ltd.、権益26%) からは2003年に撤退した。

¹¹ 本文に記載のとおり、2003年9月にIvernia West社から残りの権益を全て買収した。

¹² Anglovaal Mining社のアニュアルレポートより。なお、同社は6月決算。

- 他にボツワナの BCL (権益 23%) でニッケルを生産している。加えて、アングロ・プラティナム社がプラチナ鉱床からニッケルを生産している。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

93 年から 98 年まで、アフリカ以外のベースメタルを対象とした探鉱開発はミノルコ社に委ねられていたが、アングロ・アメリカン社設立後は、同社の探鉱部門 (Exploration & Acquisitions Division) が探鉱開発を統括管理している。

アングロ・アメリカン社は、ヨハネスブルグ、サンティアゴ、ヴァンクーヴァー、パースにハブとなる探鉱事務所を置き、幅広い地域で探鉱を実施している。

2002 年の探鉱費は US\$ 46.3 百万で、主要非鉄金属企業中 9 位であった。なお、この探鉱費にはデ・ビアス社、アングロゴールド社、アングロ・プラティナム社等の探鉱予算は含まれておらず、これらを加えた探鉱費は US\$229.2 百万で、主要非鉄金属企業中 1 位である。

アングロ・アメリカン社は、プロジェクトの見直しを実施している。その結果、地方探鉱事務所の閉鎖や探鉱費の大幅な削減 (2001 年 US\$67.0 百万 2002 年 US\$46.3 百万)、スタッフの削減が行われた。

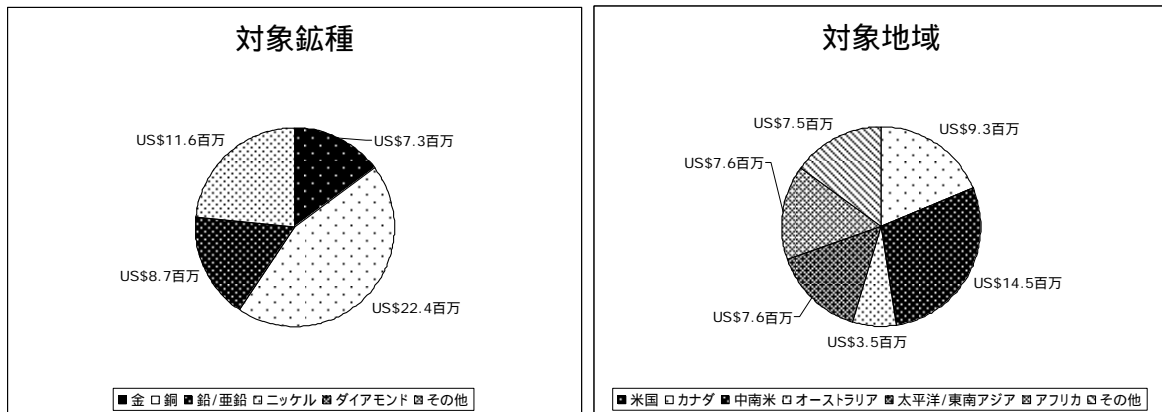
(2) 対象鉱種

金に関しては、アングロゴールド社が、白金族金属に関してはアングロ・プラティナム社が探査を実施しているため、アングロ・アメリカン社はベースメタルを中心に探査活動を行っている。

(3) 対象地域・探鉱段階

探鉱予算の 29% を中南米地域が占めている。2002 年の探鉱予算ではアフリカ地域が約 26% を占めていたが、2003 年の予算ではアフリカ地域が 15% に低下しており、アフリカ離れが目立っている。

探鉱段階に関しては、アングロ・アメリカン社はグラス・ルーツの探鉱に重点をおいており、2003 年の探鉱予算はグラス・ルーツ US\$27.5 百万 (55%)、事業化調査 US\$5.2 百万 (10%)、鉱山周辺探鉱 US\$17.3 百万 (35%) であった。



2003 年の探鉱予算

(4) 最近の動向

(アフリカ)

ザンビアでオーストラリアの Equinox Resource 社との JV で Zambezi プロジェクトを実施している (アングロ・アメリカン社権益 90%)。Zambezi プロジェクトはザンビア国内に 30,000 km² 強の鉱区を保有し、現在はカッパーベルト周辺を含む 21,000 km² でボーリング調査を含む探査を実施中である。

このほか、ナミビアのスコープオン鉱山やブラック・マウンテン鉱山の周辺探鉱や、コンゴ民主共和国でグラス・ルーツの探査を行っている。

一方、アングロ・プラティナム社は 2003 年の探鉱予算の 78% を南アフリカに充てている。また、その額は 2003 年に比べて 2.6 倍に増えており、白金の生産拡大を目指す姿勢が現れている。

アングロゴールド社は 2003 年の探鉱予算の 24% をアフリカ地域に充てている。同社が高山を所有する南アフリカ、マリ、タンザニア、ナミビアの鉱山周辺の探鉱に加えて、マリやタンザニアではグラス・ルーツ探鉱も行っている。

(中南米)

チリでは、ポーフィリーカッパーの探査を重点的に実施している。マントス・ブランコス鉱山、マントヴェルデ鉱山に加えて、ディスプターダ社の買収により獲得したロス・ブロンセス鉱山、エル・ソルダード鉱山を有機的に結びつけるため、周辺探鉱やグラス・ルーツ探鉱を実施している。

ブラジルでは、銅、銅-金鉱床を対象に広域的な調査を行っている。

ペルーでは亜鉛を対象とした探鉱を実施していたが、良好な結果が得られなかったため、終了した。現在ペルーではブラジルと同様に銅、銅-金を対象とした探鉱を行っている。

また、メキシコ、アルゼンティンで銅を対象にプロジェクト発掘を行っている。さらに、メキシコではいくつかのジュニアカンパニーと JV を結んでいる。

アングロ・プラティナム社は、ブラジル・セアラ州で、Pedra Blanca 白金鉱床の探査を実施している。本プロジェクトは 2003 年 2 月に米国のジュニアカンパニーである Solitario Resources 社から 51% の権益を得たもので、これまでに資源量 10.7 百万トン (0.35 g/t Pt, 1.15 g/t Pd) が見込まれている。

アングロゴールド社は、ブラジル、ペルー、アルゼンティンで探鉱を行っている。ブラジルでは、同社のモロ・ヴェーリョ鉱山やセラ・グランデ鉱山の周辺探鉱を行っているほか、Iamgold 社の Moeda プロジェクト (ミナス・ジェライス州) に参入した。

ペルーではアンデス地域でグラス・ルーツ探鉱を実施している。また、Puno 州の La Rescatada プロジェクトでは 2003 年に 9,000m のボーリング調査を実施した。

アルゼンティンでは Cerro Vanguardia 鉱山の周辺探鉱を行っている。

(北米)

アングロ・アメリカン社の探鉱予算の約 19% を占めるカナダでは、予算の半分以上がハドソン・ベイ鉱山の鉱量拡大に使われているが、マニトバ、オンタリオ、ケベック、ノースウェスト、ヌナブトの各州・準州でグラス・ルーツ探鉱が行われている。ヌナブト準州では、2003 年 2 月に Muskox Minerals 社から Muskox 銅-金-PGM 鉱床の 51% の権益を取得した。

アングロ・プラティナム社は、オンタリオ州サドベリー近郊で Pacific North West Capital 社と JV で River Valley と Agnew Lake の 2 つのプロジェクトを実施している。

アングロゴールド社は米国ネバダ州及びアラスカ州で探鉱を行っている。ネバダ州では広域調査によって抽出されたいくつかのターゲットでボーリング調査を行っている。アラスカ州では複数の JV による探鉱を行っている。

(オーストラリア)

亜鉛・ニッケル・銅を対象にグラス・ルーツ探鉱を実施しており、サウス・オーストラリア州及びウェスタン・オーストラリア州で、オーストラリアのジュニアカンパニーと JV を組んでいる。

アングロゴールド社はオーストラリアに 2003 年の探鉱予算の約 23% を充てており、サンライズ・ダム鉱山の周辺探鉱を実施している。また、ノーザン・テリトリーの Tanami 地域、ウェスタン・オーストラリア州の Boddington 地域で精査を実施していたが、Tanami 地域については良好な結果が得られず、2003 年 11 月に売却した。同社の概査はウェスタン・オーストラ

リア州を中心に行われている。

(アジア)

フィリピンでは、Philex Gold 社との JV によりミンダナオ島で探査を実施しており、Boyongan 地域でポーフィリー銅-金鉱床の探査を引き続き行っている。インドでは、鉛・亜鉛を対象として、Rajasthan 州において探査を実施している。

アングロ・プラティナム社は中国・四川省での探鉱を開始した。

(ヨーロッパ)

スウェーデンで酸化鉄銅-金鉱床の探鉱を進めている。

アングロ・プラティナム社は、英国の Eurasia Mining 社と JV を組み、ロシアで白金族金属の探鉱を行っている。調査地域はエカテリンブルグの北西約 100 km のウラル山脈地方にあり、ボーリング調査が進められている。